

春日井民商だより

N 0.1253 2010. 11. 29

発行 春日井民主商工会

春日井市ことぶき町 183

TEL 81-1482・FAX81-9756

11月17日、定例の春日井市交渉（話し合い）を行いました

中小業者の実態を訴え、春日井市へ施策の充実を求める

11月17日(水)午前、春日井市役所 304 会議室で、春日井市との話し合い（市交渉）を行いました。毎年、中小業者の営業とくらしに関わる要望を市に提示し、回答を求めて、施策の改善を話し合うとりくみとして継続してきました。

今年の話し合いには春日井市側から経済振興課長をはじめ 9 名の課長・課長補佐に参加いただき、春日井民商からは森山会長をはじめ 14 名が参加しました。

中小業者の深刻な実態を訴える

話し合いでは、参加者が「売上が半分になっている、建設業が不況になるとその影響でお客さんが減ってしまうので大変」（飲食業）「店の売り上げはほとんどない。インターネットの販売で何とかつないでいる」（リサイクルショップ）

「生産がどんどん海外に出て行って仕事なくなっている」（ダンボール製造）「大工をしている夫の仕事はなくて、ときどき剪定の仕事があるぐらい」「お客さんが減って息子に給料も払えない」（理容業）「昨年と比べれば多少売上が戻ってきたが、一緒に仕事をしてきた息子の仕事ではなく、息子は他で働いている」「家賃は交渉して値下げしてもらった、他にも何とか経費が削減できないかと努力している」（鉄工業）などと自分たちの営業実態を訴えました。

行政は業者の実態をわかっていない

しかし、事前に春日井市から来た「回答」は「市内の中小企業の経営は厳しい状況であるものと認識している」としながら、固定費の助成や地元業者に仕事が回る「住宅リフォーム助成制度」については財源がないとか「経済効果が十分期待できない」などと理由を付けて実施しようという姿勢は全く見えませんでした。特に問題なのは、それぞれの施策に関わる財政的試算もせずに「補助ができない」と回答していることです。「住宅リフォーム助成制度」については県内で一番に実施した蒲郡市の例（10月からスタートしてすでに予算を使い切る申し込みがあり市民や業者に喜ばれていること）を示して、検討を求めました。

国保証の交付は市民の立場に立った対応を

国保証の問題では、まず、保険証の切替時点では「分納の実績」については全く考慮されていなかったことがあらためて明らかになりました。また「とめおき」世帯が 950 世帯あまり残っていることについて、解決のために市から「毎月 100 件程度に案内を出している」という回答がありましたが、いっせいに通知を出して「保険証がない」状態を改善してほしいと要望し、収納課長からは「対応は可能」という回答がありました。

来年はもっと多くの参加者で話し合いを！

参加者からは「市が中小業者のことを真剣に考えているとは思えない」「来年は会議室場いっぱいになるぐらいの参加者で交渉しよう」などの感想が出されました。今回の話し合いには日本共産党市議団の宮地、内藤、伊藤市議に参加いただきました。

毎年好評の日高昆布入荷しました！

⊕2,500円（500グラム）

⊙1,500円（300グラム）

根昆布 2,200円 お早めどうぞ



お知らせ
今年も共済会は「インフルエンザ予防接種」の補助を行います。
(共済加入者に限り二〇〇〇円まで)

11/21 愛知商工交流会開かれる

11月21日(日)、半田市の雁宿ホールを会場に第14回愛知商工交流会が開かれ全県から144名が参加しました。「今一度仲間とともに語り合おう！掘り起こせ！知恵と経験、中小業者の底力。新時代へ壁をつきやぶろう！」をテーマに、午前中は名城大の井内尚樹先生の記念講演、午後は4つの分科会に分かれて熱心な討論と活動の交流が行われました。春日井からは7名が参加、小松副会長と西支部の阪井さんが分科会で活動報告を行いました。



消費税学習会

ところ12月1日(水)午後7時～

会場 レディヤン春日井 第2集会室

講師 愛知税制研究所事務長の久米徹夫さん

12月は早めの会費集金にご協力をお願いします 会計 山崎孝亀